

2026 年 1 月 29 日

株式会社三菱 UFJ 銀行

インパクト投資ファンドへの LP 出資について

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（代表執行役社長 ^{かめざわ ひろのり} 亀澤 宏規、以下 MUFG）の連結子会社である株式会社三菱 UFJ 銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち} 半沢 淳一、以下 当行）は今般、GLIN Impact Capital が運営する国内外の未上場グロースステージ企業へのインパクト投資（経済的リターンと同時に社会・環境へのポジティブな変化（インパクト）を生み出すことを意図する投資）を行うプライベートエクイティファンドである GLIN Impact Capital 2 号（以下 本ファンド）への出資（以下 本出資）を決定いたしました。

1. 本出資の背景

MUFG は、自社のパーパス（存在意義）を「世界が進むチカラになる。」と定め、持続可能な社会、活力溢れる社会の実現に向け、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決に取り組んでいます。2024 年度から開始している中期経営計画において、「成長戦略の進化」、「社会課題の解決」、「企業改革の加速」を 3 本柱に据えています。特に「社会課題の解決」については、経営戦略と一体化させ、社会課題の解決に金融サービスを通じて貢献することで、結果として、お客さまや MUFG の経済的価値が向上するとの考えのもと、お客さまと MUFG の社会的価値と経済的価値をつなぎ、両者を相乗的に高めていくことが重要であると考えています。

本ファンドを率いる GLIN Impact Capital は、グローバルネットワークを活用した日本を代表するインパクト投資の専門集団です。投資先のインパクト創出を推進しながら、徹底したハンズオン支援を通して投資先の企業価値向上を着実に進めてきた実績があります。まさに、投資を通じて、社会的価値と経済的価値をつなぎながら「社会課題の解決」を実践しています。本出資を通じて、MUFG が目指す「社会課題の解決」の具現化手法を学び、金融サービスを通じて「社会課題の解決」に一番近い金融機関としてのプレゼンス向上につなげていきたいと考えています。

当行は、2021 年にインパクト投資のインパクト測定・管理をするための国際原則である Operating Principles for Impact Management（以下、「OPIM」）¹に署名以来、OPIM が示す国際水準のインパクト測定・管理への理解を深め、社内への浸透を進めてきました。本出資では、OPIM に基づき「社会課題の解決」への貢献度を評価し、社会的価値を可視化することで、経済的価値との相乗効果を追求していきます。

2. 本ファンドの概要

本ファンドは、インパクト投資とインパクトスタートアップの発展を目指し、国内外の未上場グロースステージでのインパクト投資をテーマとして設立されたファンドです。本ファンドを運営する GLIN Impact Capital は、インパクト評価グローバル最大手の 1 社 BlueMark²社より日本のインパクト投資のパイオニア／エコシステムビルダーとして紹介され、Harvard Business School³のケーススタディに採用される国内第一世代のインパクト投資家です。

当行は本出資に関して、投資諮問委員として投資先の事業成長とインパクト創出に関与し、本ファンドへの関与を通じた「社会課題の解決」を実践していきます。

ファンド名称	GLIN Impact Capital 2 号投資事業有限責任組合
ファンドマネージャー	GLIN IMPACT CAPITAL
対象地域	主に日本（一部海外）
投資対象	ターゲット：国内外の未上場グロース企業 セクター：①気候変動・環境、②ヘルスケア、③インクルーシビティ（人・コミュニティ）
特徴	インパクト・ESG を含む多面的なメニューにより企業価値向上の支援をハンズオンで実施

^[1] Operating Principles for Impact Management 当行プレスリリース：「インパクト投資の運用原則」への署名について
https://www.mufig.jp/dam/pressrelease/2021/pdf/news-20210315-001_ja.pdf

^[2] BlueMark 社 HP <https://bluemark.co/>

^[3] Harvard Business School HP Publications GLIN Impact Capital <https://www.hbs.edu/faculty/Pages/item.aspx?num=66561>

以 上